

略 此數事者照爛典章揚推而言足爲龜鏡

〔古文書類纂下賣渡證文〕沽却 田地新立券文事略○中

右件田地元者馬三郎相傳領掌之地也而今依有要用宛現米玖石限永代作手令沽却于本阿彌隨事實也略○中 若向後雖有御德政全以不可申子細者也仍爲後代龜鏡放新立券文之狀如件

元弘二年壬申正月廿一日

馬三郎押○華
嫡男彌八押○華略

〔北條五代記八〕大龜陸へあがる事

同じき年○天文十四年三月廿日の日中大龜一ツ小田原浦眞砂地へはひあがる町人は是をあやしみとらへ持來て松原大明神の池の邊に置八人が力にてもちわづらふ程也氏康聞召大龜陸地へあがる事目出度瑞相なりとて即刻宮寺へ出御有て龜を見給ひ仰にいはいはく天下泰平なるべき前表には鳥獸甲類出現する往古の吉例多し是ひとへに當家平安の奇瑞兼て神明の示す所の幸なりと御鏡を取よせ龜の甲の上には是をおかしめ給ひそれ龜鏡と云事はさしあらはして隠れなき目出度いはれありと御感悅なめならず竹葉宴醉をすめ一家一門ごとくく參集列候し盃酒數順に及ぶ萬歳の祝詞をのべ給ひてのち件の龜を大海へはなつべしと有しかば海へぞはなちける